

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の理念の中に「地域密着型サービス」としてを盛り込んだ基本方針を定め、事務所、玄関に掲示している。	○	今後も地域の中で支え、発展していく事業所として努めていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は、理念を理解し、日々のケア、支援の中で実践している。	○	理念の継続に向け、日々これからも努めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議、家族会を通じ少しずつではあるが理解願えるよう取り組んでいます。立地条件もあり十分とは言えない面もある。	○	地域密着型サービス事業所として、今度地域に貢献していく働きかけをして理解を深めていけるよう努力していかなくてはならない。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣には、事業所が多く住宅地から距離があり、日常的なつきあいは出来ていない。	○	今後も課題として共有し、地域、近隣とのつきあいの発展に努める。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所には招待し参加して頂き交流を図っている。	○	まずは広報誌を回覧し、地域とのつきあいを足がかりにして、地域に出向き交流し活動の幅を広げていきたい。(勉強会やサポーター養成など)

モンファミーユ舞鶴(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	現状では、取り組んでいない。	○	基本方針の実践、地域との支え合いも不十分なので、研修に参加するなどしてスキルを上げ、話し合いの場を設け努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	全職員に自己評価を願い、客観的な意見を聞く機会として、今後の取組の方向性を考えるツールとして活用している。	○	今後も、全職員による自己評価を継続していきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	定期的に開催し、運営状況等報告しているが改善に向けた意見もあまり聴けないのが現状である。	○	会議室での報告、意見交換など堅苦しい場でなく、現状や場面を見ていただきながらサービス向上に繋がる取組に努める必要がある。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	疑問点等の照会、ケアプラン作成の参考とするために、介護認定審査会資料の提供など、連携を図っている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	活用されている入居者もあるが、学ぶ機会がなく、全職員が理解しているとは言えない。	○	研修・説明会等機会があれば、積極的に参加しスキルを向上していきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	法人内部や外部の研修に参加し、フィードバックをしてもらい「こんな事でも虐待につながるんだ」と言う気づく機会、学ぶ場を設けている。	○	同上

モンファミーユ舞鶴(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、運営規程、重要事項説明書等に基づき説明し、理解願っていると思う。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の訪問、ご意見箱の設置などをし、意見・苦情があれば改善し運営に反映している。	○	認知症によって表現、意思表示が出来ない方が多い中、カンファレンスで検討し反映できる方向に取り組んでいきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度近況報告をして、暮らしぶりや金銭の使用状況、写真、広報誌を送付し、面会時、電話でも必要に応じて、個々にあわせた報告を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度アンケートや家族会での意見交換の場を設けているが、深刻な苦情は寄せられないため、意見、苦情が表しやすい工夫を模索している。	○	きめ細かい意見、苦情が表しやすいアンケート内容の見直しや、頻度を検討する必要がある。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務報告書で、改善意見等あれば、可能なかぎり改善に努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	個々のニーズに対応できるように、カンファレンスで取り上げて可能なかぎり対応できるよう調整に努めている。	○	人員人数も限られているので、今後も工夫し柔軟に対応できるよう調整していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動、離職するにあたり、継続して支援、ケアを行えるよう引継ぎや、利用者、ご家族への説明等に配慮している。		

モンファミーユ舞鶴(西棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>目標チャレンジシート、法人の内部研修や外部研修への参加、上位資格の取得などに力を入れて取り組んでいる。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>府下のGH連絡会への参加と本年度から市内のGH連絡会への参加と交流を通じ、ネットワーク作りを行い、今後も活動を通じて向上に向けた取り組みにしていきたい。</p>	<p>○</p> <p>地域密着型サービス事業所の役割として、今後は講師、技術者を育てられる会として、より一層有意義な会にしていけたらと思う。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個別に面談する場を設けていないので不十分だと思われる。法人内で「心の保健室」が設立されたが、遠隔地のため利用が難しい。</p>	<p>○</p> <p>精神面、体力面の状況を把握出来るよう個別面談を行い、相談しやすい場、取り組みに力を入れていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>目標チャレンジシートや個々の努力や実績がダイレクトに反映し、向上心を持って働き続けるように工夫する必要がある。</p>	<p>○</p> <p>個別評価を分かりやすくし、向上心に繋がるように行う。</p>
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居に当たっては、本人・家族やケアマネと面談し、情報、要望、ニーズを聴き取り、受け止める努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>上記に同じ</p>	

モンファミーユ舞鶴(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者にとって何が必要かを考え支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	バックグラウンドなどの情報を集め、馴染みやすい雰囲気、環境を整えるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の場として共に一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にして、入居者から学んだり、教わったり、手助けして頂いている。	○	現在西棟は、認知症状が重度の方、身体的重度の方が多く、係わりの中から共に過ごし支えあえる関係に力を入れている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お祭り、敬老会、家族会の開催など、共に時間を過ごすことで、互いに出来ない部分を補い合い、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	参加者が減少している。認知症のことをもっと深く知ってもらい機会を増やし、ご家族の力をお借りし入居前よりも深い支えになってもらいたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個々の関係を理解し、よりよい関係に向けた支援をしている。 (外出・外泊の支援)	○	入居前のご苦労をくみ取り、ご家族にも理解を得ながら、少しでもよりよい関係が築けるように努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どうしても途切れがちだが、面会やニーズに答え柔軟な対応に努めている。	○	ご家族、関係者等と話し合い、馴染みの人との再会や、外出の機会を増やしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に出来る作業やアクティビティーなどを行うことで、入居者同士が係わり合い、支える支援をしている。また、良好な関係が築けない場合も間に入ることや席替えなど配慮している。	○	認知症の度合いにもより孤立化してしまう面もある。また、性格的に一人で過ごされたい方もおられるが、場面々で声をかけて支えるよう努めている。

モンファミーユ舞鶴(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	なかなか継続的なつき合いは難しい。	○	利用終了された方でも、今後ご意見を伺う大切な協力者として、事業所として積極的に長いお付き合いが出来るよう取り組む必要がある。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月カンファレンスを行い、本人の希望、意見を取り入れたケアプランを作成し、本人本位のケアマネジメントに取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドを把握し、一人ひとりに合った生活パターンを大切にしている。	○	住んでおられた住環境も写真に取るなどして、もっと馴染みの暮らしを知る必要がある。より一層その人の歴史を把握し馴染みの暮らしが出来るよう努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	無理に共同生活に合わせるのではなく、個々の暮らし方、過ごし方を大切にケアしている。	○	現在西棟は、本当に一人ひとりの一日の過ごし方から心身状態までバラバラなので、個々の過ごし方を大切にして支援している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人に意見を求めるのは、難しいときもあるが、毎月のカンファレンスで話し合い、意見、アイデアを盛り込み、また、家族にも意見を求めケアプランを作成している。	○	ケアプランを見直し、何が本人にとってより良い介護計画作成にあたるのか職員間でも何度も検討していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6箇月に1回見直しをし、新たな計画を作成しているが、本人の変化に伴い、随時現状に即した新たな計画を作成している。		

モンファミーユ舞鶴(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな記述により、介護計画の見直しに活かされている。	○	記録が細かすぎるので負担になっているのも現状で、工夫が必要と考えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族による通院、退院、外出、外食など、その時々々の要望に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、近隣の保育園・小学校・中学校などと協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用はないが、必要に応じ対応したい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事例はないが、必要が生じた時点で対応したい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を整え、かかりつけ医、協力病院を持ち、安心と適切な医療を受けられるよう支援している。	○	当事業所とのかかりつけ医でない医療機関でも、通院や医師との連携等NSを中心に支援している。

モンファミーユ舞鶴(西棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>連絡会などで知り得た情報で、より良い医師に相談できる体制を整えていきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>グループホームとして「出来ること、出来ないこと」などを事前に充分話し合い承諾して頂く必要がある。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇委員会を設けるなどして、言葉かけには留意し、個人記録は鍵つきの書庫に保管している。	○ 職員間で評価し合い、向上していけるような取組があればと思う。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定・選択の場を作るよう心がけている。	○ 表現しにくい方、意思決定等が難しい方でも、急がずゆっくと関わりながら、本人の選択を引き出すよう声かけしたり、言動などを見て思いを察するよう努めている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別支援に力を入れていて、毎日の日課、決まりごとは最小限にとどめて、一人ひとりのペースを大切に、希望にそって支援している。(居室で食事がしたい・入浴したくない)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	できるだけ努めてはいるが、現状は隣接のアザレアに来られる理美容を利用している。	○ 衣類、小物は用意された物を支援しているが、外出などの機会に希望されたものを購入できるよう家族と話し合い支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握して、できる事を入居者と一緒に役割を持って手伝っていただいている。また、食事を楽しむことのできる支援を行っている。(ふりかけをかける)	○ 口から食べる喜びを継続できるよう食事形態も隣接しているアザレアの栄養士と相談し柔軟に対応している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々に合わせ支援している。適量の判断がつかない方などは、本人の了解を得て希望時に支援できるようお預かりしている。	

モンファミーユ舞鶴(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、適時のトイレ誘導などで気持ちよく排泄できるようケアし、使用の開始にあたって不快感にならないようパット、リハパン等の検討を重ねて支援にあたっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、一応設定はしているが、あくまで希望があればいつでも入浴していただけるよう支援している。	○	現在は、夜の入浴者はおられませんが、以前入眠前に入っていた方もあり、希望、要望があれば柔軟に対応できる体制にしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない時には、話し相手になったり、あたたかい飲み物などで対応して支援している。	○	休息や活動も本人の自由であり、本人のペースで安眠、休息を今後も支援していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味の囲碁の相手(ボランティア)、日向ぼっこ、外出機会を増やすなど支援に取り組んでいる。	○	ご家族をまき込んでいける機会にしていけたらと思う。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に支援を必要とされる方が多く、安全に所持し、管理していただくことは出来ないが、本人の不安な訴えがある場合、ご家族の了解を得て小額を所持してもらったりしている。	○	以前は、金額を決めて買い物の機会を設けていたが、ケアの重度化に伴い、出かけることが減ってきたしまっている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ、散歩、外食、喫茶店、イベント参加など外出の支援を実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の対応は困難な面があるが、季節に応じた外出行事を実施している。ただし、家族と共に外出の機会はない。	○	今後小旅行などが行けたらと思う。

モンファミーユ舞鶴(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、ご家族の希望時に柔軟に支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間は設けず、気軽に訪問いただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず行う必要が生じたときは、医師の指示、家族の同意、マニュアルに沿って行うこととなるが、職員も身体拘束が禁止であることは十分認識して支援に当たっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間を除き常時開放するなど、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の行動パターンを把握しプライバシーや安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて、危険、混乱がないよう防ぐ取り組みをしている。	○	家庭的な生活の中で、当たり前にあるようなものは、あえて置いてもらい、本人の能力に応じ危険、混乱になった場合のみ保管、管理している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会、研修会、避難訓練の実施、また、マニュアルを周知し事故防止に努めるとともに不幸にして発生した場合の対策を検討している。	○	防止のための検討、対策の周知徹底の強化を図る必要がある。

モンファミーユ舞鶴(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命訓練や、吸引機の使い方の勉強会を実施している。	○	全職員がいざと言う時に対応できるよう事業所独自に定期的に訓練を行い、対応にあたられるよう体制を整えていく必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署職員の指導を受け、防災訓練を実施するとともに、消防計画を策定し職員に周知、ただし、地域に向けての働きかけはできていない。	○	各種災害発生時のマニュアル作成が必要
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	そのときの状況によって話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックや様子観察などを通じて変化、異常の発見に努め、異常があれば速やかに医師・看護師に連絡し、日誌、ファイル等で情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの処方箋によって副作用に関する説明書は、誰もが確認しやすい場所に保管して、変更にも間違いがないよう配慮している。	○	全職員が理解し、間違いがないよう努めているが完全とは言えない。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量、排泄チェック、繊維の多い食べ物などを提供し、便秘予防に取り組んでいる。(寒天ゼリー)	○	どうしても仕方がない場合は、ご家族、本人の了解の下服薬に頼っていることもある。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全員が毎食後には行えていないが、清潔保持には気を配っている。		

モンファミーユ舞鶴(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事摂取量、水分摂取について記録し、体調管理に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	看護師を中心に、マニュアルに基づき消毒の励行、衛生管理を徹底し、感染予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限等確認するとともに、盛り付け時には手袋を着用、調理器具、食器の消毒を行い管理している。また、月初めには冷蔵庫内の消毒も行うようになった。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	美化環境委員を中心に、入居者と共に園芸を行い工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏季には、直射日光を遮るための日除けテントをしたり、、また、テレビをつけたままにせずどこかで聴いた歌、童謡を流すなど、心地よい空間づくりをしたり、行事写真や季節の飾り物を掲示するなど工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やベランダ、前庭にベンチを置き利用していただけるようにしている。		

モンファミーユ舞鶴(西棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られたスペースではあるが、特に持ち込みも制限はしていない。	○	使い慣れた物や、好みの物を活かして居心地の良い居室にしていきたいと思っているが、施設側の備え付けの家具や物を使用される方が多い、今後も声かけをして工夫していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や室温は、個々の身体状況に気をくばり日々チェックしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫し努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりを把握し、ホームで役割を持って生活していただけるよう、体調や気分に応じた環境作りに取り組んでいる。	○	身体面と認知症の重度化に伴い、一人ひとりに合った生活ペースに重点を置き、小さな出来た事でも一緒に喜びを共にし、少しでも自立が継続できる暮らしに配慮している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	椅子を置き、いつでも外で日向ぼっこもしていただけるようにし、また、プランターを置き園芸も出来るようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

モンファミーユ舞鶴(西棟)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の細かなニーズにも対応できるケアに力を入れ取り組んでいる。